



LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポート

LDAP 機能での送信元インターフェイスと VRF サポートを使用すると、Cisco Integrated Services Router (ISR) Generation 2 で専用の LDAP 送信元インターフェイスの IP アドレスと仮想ルーティングおよび転送 (VRF) の詳細を設定できます。Cisco ISR Generation 2 と LDAP サーバー間の TCP 接続を作成するときに、送信元インターフェイスアドレス (アドレスは IPv4 または IPv6 アドレスにすることができます) と VRF の詳細が入力されます。このモジュールでは、この機能を設定する方法を説明します。

- [LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートに関する情報 \(1 ページ\)](#)
- [LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートを設定する方法 \(2 ページ\)](#)
- [LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートの設定例 \(3 ページ\)](#)
- [LDAP での送信元インターフェイスおよび VRF サポートの機能履歴 \(4 ページ\)](#)

LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートに関する情報

LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートの概要

LDAP 機能に送信元インターフェイスと VRF サポートが導入される前は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) クエリの送信元 IP フィールドに送信元インターフェイスアドレスを指定することはできませんでした。代わりに、トンネルインターフェイスの IP アドレスが送信元 IP フィールドで使用されました。

LDAP 機能での送信元インターフェイスおよび VRF サポートは、シスコデバイスで専用の LDAP 送信元インターフェイスアドレスを設定するのに役立ちます。送信元インターフェイスアドレスはシスコデバイスに設定されており、デバイスはこのインターフェイスアドレスを使用して、LDAP サーバーに送信するすべての LDAP パケットを発信します。送信元インターフェイスアドレスは、エンドサーバーのポーリングにも使用され、エンドサーバーの到達可能性を確保します。

送信元インターフェイスの IP (IPv4 または IPv6 アドレスのいずれか) アドレスと仮想ルーティングおよび転送 (VRF) の詳細は、シスコデバイス (クライアント) と LDAP サーバー間の TCP 接続を作成するときに LDAP クエリに入力されます。

VRF インスタンスはシスコデバイスで設定され、VRF テーブル ID の詳細は、TCP 接続を作成する前にソケットオプションで設定され、ルーティングテーブルの複数のインスタンスが同じデバイスで同時に共存できるようにします。ルーティングインスタンスは互いに独立しているため、同じまたは重複する IP アドレスを競合することなく使用できます。

LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートを設定する方法

LDAP での送信元インターフェイスと VRF の設定

aaa group server ldap コマンドおよびグローバル コンフィギュレーション モードで送信元インターフェイスアドレスと仮想ルーティングおよび転送 (VRF) インスタンスを設定した場合、**aaa group server ldap** コマンドでの設定が最も優先されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device(config)# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	aaa new-model 例 : Device(config)# aaa new-model	認証、許可、およびアカウントिंग (AAA) アクセス コントロール モデルをイネーブルにします。
ステップ 4	aaa group server ldap group-name 例 : Device(config)# aaa group server ldap ldap-server-group	さまざまな Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) サーバーを個別のリストとメソッドにグループ化し、LDAP サーバークラス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 5	{ip ipv6} ldap source-interface interface-type interface-number 例 :	LDAP パケットの送信元インターフェイスの IP アドレスを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Device(config-ldap-sg)# ip ldap source-interface gigabitethernet 0/0/0	
ステップ 6	{ip ipv6} vrf forwarding vrf-name 例 : Device(config-ldap-sg)# ip vrf forwarding cws-vrf	AAA LDAP サーバーグループの VRF リファレンスを設定します。
ステップ 7	server name 例 : Device(config-ldap-sg)# server ldap-server	LDAP サーバーを指定します。
ステップ 8	exit 例 : Device(config-ldap-sg)# exit	LDAP サーバーグループ コンフィギュレーションモードを終了して、グローバルコンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 9	{ip ipv6} ldap source-interface interface-type interface-number [vrf vrf-name] 例 : Device(config)# ip ldap source-interface gigabitethernet 0/1/0 vrf cws-vrf-1	LDAP パケットの送信元インターフェイスの IP アドレスを指定します。
ステップ 10	end 例 : Device(config)# end	グローバル コンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポートの設定例

例 : LDAP 送信元インターフェイスと VRF の設定

```
Device> enable
Device(config)# configure terminal
Device(config)# aaa new-model
Device(config)# aaa group server ldap ldap-server-group
Device(config-ldap-sg)# ip ldap source-interface gigabitethernet 0/0/0
Device(config-ldap-sg)# ip vrf forwarding cws-vrf
Device(config-ldap-sg)# server ldap-server
Device(config-ldap-sg)# exit
Device(config)# ip ldap source-interface gigabitethernet 0/1/0 vrf cws-vrf-1
```

```
Device(config)# end
```

LDAP での送信元インターフェイスおよび VRF サポートの機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	LDAP での送信元インターフェイスと VRF サポート	シスコデバイスと LDAP サーバー間の TCP 接続を作成するときに、IPv4 または IPv6 インターフェイスである送信元インターフェイスと仮想ルーティングおよび転送 (VRF) の詳細が入力されます。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> [英語] からアクセスします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。